

会議録

会議の名称	令和8年度第2回子ども・若者審議会「子ども・若者の権利の観点」からの評価・検証専門部会
開催日時	令和8年5月14日（木曜日）午前9時30分から午前11時25分まで
開催場所	田無第二庁舎4階会議室1
出席者	委員：小野部会長、小林委員、島崎委員、中西委員、林委員、辻委員 事務局：遠藤子ども若者部長、菱川子ども若者応援課長、越川子ども若者応援課子ども若者計画係長、須藤子ども若者応援課子ども若者計画係主任、園田子ども若者応援課子ども若者計画係主事、佐々木子ども若者応援課子ども若者計画係主事、吉尾子ども若者応援課子ども若者計画係主事
議題	1 議題 (1)第3期西東京市子ども・若者ワイワイプラン令和7年度取組実績について (2)西東京市ワイワイトークについて (3)「子どもの意見表明」の子どもアンケートについて (4)日常保育での活動の取組状況確認について 2 報告 西東京市若者会議について
会議資料の名称	第1回会議資料1 第3期子ども・若者ワイワイプラン令和7年度取組実績（重点①～⑦） 資料1 令和8年度西東京市ワイワイトーク資料案 資料2-1 子どもアンケートの実施内容の変更について 資料2-2 アンケートお知らせチラシ・ポスター 資料2-3 子どもアンケート（子どもの意見表明）_高学年以上版 資料2-4 子どもアンケート（子どもの意見表明）_低学年版 資料2-5 子どもアンケート用説明動画（「子どもの意見表明」を知ろう！） 資料3 日常保育での活動の取組状況確認について
記録方法	☐ 全文記録 ☒ 発言者の発言内容ごとの要点記録 ☐ 会議内容の要点記録
会議内容	
1 議題 (1)第3期西東京市子ども・若者ワイワイプラン令和7年度取組実績について 事務局から第1回会議資料1に沿って説明 ○小野部会長： 8月の部会で、専門部会としての評価を行うにあたって、今回の会議では、まず子ども・若者ワイワイプランの令和7年度の自己評価について、評価に必要な情報が記載されているか、不足があればご意見をいただきたい。また、ワイワイトークで実際に説明する「子ども・若者の意見表明の機会の充実」の取組について、事務局から提案された3つの事業、【資源循環推進課の資源循環サミット】【企画政策課の総合計画の出張授業】【公共施設マネジメント課の学校建替に係る出前授業】でよいか、他に希望はあるか、部会員の意見を伺いたい。 ワイワイトークの内容については、参加者に説明をする際の資料を、今後、事務局と中西ゼミとで調整しながら作成するため、内容をある程度決めておきたいと考えている。 始めに、自己評価の内容について、前回の審議では、事業のホームページリンクを掲載する	

ことや、自己評価の記号の記載について、そして記載の分量が少ない事業については書き加えた方が良いのではないか、また「アンケートを実施した」と記載されていても、その内容がわからない、との意見が出たが、さらに気づいた点があれば伺いたい。

次回の7月の専門部会までに自己評価の記載を修正することが可能な部分は修正した上で、専門部会で評価・検証を行えるようにしたいため、文言等で気になるところがある場合は、会議後に質問フォームを事務局に設定してもらうので、事務局に意見を伝えていただき、事務局はその内容を含めて修正してほしい。

全体として、自己評価の理由のところに「予定通り実施したため」のみの記載になっている事業があるが、もう少し書き加えていただくことができないか。

令和8年度実績自己評価の右側にある◎○△×4つの評価の部分があるが、「予算の新規計上・拡充や子ども・若者の意見を反映させた事業実施ができた」場合には◎を記載することになっているが、子ども・若者の意見を反映させた内容の記載がなくても◎がついている点が気になった。この記号の記載がわかりにくいと感じるため、可能であれば変更したい。

新規事業かつ子どもの意見反映で◎なのか、片方だけでも◎なのか、若しくは子どもの意見反映をしていれば◎なのか、どちらなのかがわからない。新規事業であれば他の記号をつけたりして違いがわかるようにするべきだと思う。

○中西委員：

子ども・若者の意見を反映させたものが◎になるとよいと考える。

○部会長：

予定通りにできた、という自己評価を記載している事業でも、子ども・若者の意見を反映させているのであれば◎に変更しても良いのではないかと思います。

○林委員：

現状の自己評価の表だと、「(4) 子ども・若者の視点での取組実績」の部分で、実施が予定通りの取組ができていれば○になる作りになっている。その中で子ども・若者の声を聞くという内容が入ってくると、担当部署はどの程度で「やった」と言えるのか、◎にしてよいのか悩んでしまうのではないか。事業実施の際に、予定通りの内容からさらに工夫したなど、プラスアルファで何かすれば◎をつけられるという方がわかりやすいのではないかと思います。

○小野部会長：

部署によって自己評価の○◎の意味合いが違って思うように思う。例えば、6ページの教育指導課の西東京市立の小学2、4、6年生と中学2年生を対象にしたアンケートを実施した、という事業内容は、子どもの意見表明を十分にやっていて、◎に該当するのではないかと考える。しかし、自己評価が○になっている。

○辻委員：

これは、予算の新規計上もしていなく、予定通りにやったから、という判断なのではないかと思う。

○小野部会長：

予算の新規計上のみでも◎になっている事業もある。全体的にズレがあるのでもう一度見直してもらうことは可能か。

○事務局：

各事業担当課に自己評価してもらう際に、◎の説明部分の記載が不十分だったのではないかと考える。趣旨としては、もともと子ども・若者の意見反映をするような予定であるとしていた上で、予定通り実施できたものを○としていた。◎に関しては、予定よりも意見を反映できるように何かを工夫したり、追加して行ったものを評価したかったため、「予算の新規計上・拡充、子ども・若者の意見を反映させた事業実施ができた」という説明文にしていた。

○小野部会長：

自己評価が○の場合は、ほかに何か工夫や拡充できなかったのかを書いてもらったほうがよいのではないか。これが書いてあるところと書いていないところがある。

○事務局：

自己評価表の（９）の部分に、「令和８年度への子ども・若者の視点での取組課題」を記載する欄を設けている。ここを書いていない課にはもう少し書くことはできるかなどを確認する形でよいか。

○島崎委員：

予算の新規計上というのは、今回の評価においては大事なことなのか。

○事務局：

自己評価するにあたって、指標としてやったことが対外的に見えやすいように予算を入れたが、子ども・若者の権利の観点から見ると最重要な点でないと考えている。

○島崎委員：

この言葉が、自己評価の判断基準の説明に入っているので、わかりにくいのかかもしれないと思う。

○小野部会長：

新規で予算計上があった事業がわかるのは大切だと思うので、目印はあったほうがよいと思う。ただ、◎の欄に、予算の新規計上と子ども・若者の意見反映の二つの要素を入れ込むとわかりにくいと思う。

○島崎委員：

新規であれば、自己評価欄の脇に新規とわかるように【新】と記載をすれば、わかりやすいのではないと思う。

○小野部会長：

では、新規予算計上した事業であれば、自己評価欄の脇に新規とわかるようにするという事でお願いしたい。

次の専門部会で自己評価表を確認する際には、それ以上の内容修正は難しいということになるのか。

○事務局：

庁内で評価の方法が浸透していないという現状がある。ご指摘いただいた、実施内容の記載不足に関しては、実際には子どもたちがインスタグラム等で広報したり、子どもが自分たちで考え、後世に残していきたいというような発表をしたといった事業もあり、意見表明の活動と

して大きなものだった事業もあった。その点の記載がないので委員の皆様にも内容が伝わっていないのではないかと感じている。

そのため、庁内で評価の判断基準や記載方法を統一しなくてはいけないと考えている。

また、予定通り○でもよいので意見表明の取組を続けることを目指すのか、予定よりプラスアルファの取組をして◎を増やしていくことを目指すのか、という方向性が市の方でまだ決定できていない状況もある。そのため、この自己評価表のまま来年度も評価をしていくことは難しく、この自己評価表自体も修正していかなければならないと感じている。

○林委員：

◎を目指すことを目的にするというよりは、内容を大切にすべきだと思っていて、子ども・若者の意見を反映させた事業実施ができたという点や、上手くはいかなかったが、次回に向けて改善点が見えたのであれば、それは評価するべきではないかと思う。これを判断基準の中に織り込む必要があるのではないかと考える。現状の自己評価表だと、一部しか上手くいかなかった事業は△になってしまうのではないかと思う。

○小野部会長：

今回の評価で△「予定していた一部が実施（達成）できた」になっている事業はあったのか。

○事務局：

重点的な取組には△の自己評価となっている事業はない状況である。

○小野部会長：

自己評価で△になっている事業がないのであれば、○が◎になるためにはどうするかを書き込んでもらうしかない。それが課題に繋がるのかなと思う。

事務局の言ったように我々に実際の活動が伝わっていないというのはその通りで、西東京市に住んでいる市民でも「こんな事業があったのか」となっている。

そのため、前回林委員が言っていたように、事業内容を知ってもらうためにホームページのURLを掲載して見てもらう方法が必要である。もしくは、チラシなどであれば写真を自己評価表に入れるべきではないかと思う。もう少しわかりやすいものにするべきだと感じる。

市のホームページから特定の事業のポスターやアンケートを検索しようとしても探すのは難しいと思う。

とにかく、市民の方が知らないことが多いのでホームページや各種SNSのURLを載せることでイメージが湧きやすい状態にしたいと考えている。

○事務局：

この自己評価表の記載方法や事業内容を理解するのに参考となる資料をどのように出していくかなどについては、7月の専門部会以降も議論していただき、令和8年度に向けての提言としてまとめていただく方がよいのではないかと考える。

○小野部会長：

7月の専門部会以降も取組の自己評価表については議論していくべきだと思う。またその内容についても、専門部会でのまとめの中に入れるべきではないかと考える。

引き続き議論していくこととしたいが、現在の自己評価表については、担当している部署に今回出た意見及び会議後に専門部会員から寄せられた意見を伝えてもらい、修正可能な箇所を修正し、次回の専門部会で提示してほしいと考える。

また、ワイワイトークで実際に説明する事業について、事務局からは「子ども・若者の意見表明の機会の充実」の取組の中から3つの事業、【資源循環推進課の資源循環サミット】【企画政策課の総合計画の出張授業】【公共施設マネジメント課の学校建替に係る出前授業】について提案されている。事務局は、3事業とも説明したいということなのか。

○事務局：

最大3つで考えている。時間的に3つが最大なだけであり、1つや2つでもよいと考えている。子どもたちが1つについて話し続けるよりも、途中でテーマを変えながらの方が飽きずに話ができるのではないかと考えた。

○小野部会長：

学校に出張授業で行ったりしている取組を説明するのはよいと思う。子どもが参加できるという意味でも話しやすいのではないかと思います。

○島崎委員：

ワイワイトークで事業を説明する際は、大学生から子どもたちに説明するのか。

○小野部会長：

事業の説明は市の事業担当から説明してもらい、子どもから意見をもらい、それをさらに体験活動に繋げていく予定である。

○事務局：

体験活動の内容としては、資源循環推進課の資源循環サミットがごみ拾いの活動が事業内容に含まれているため、今回説明する事業としてよいのではないかと考えた。

○辻委員：

今年度も資源循環推進課で資源循環サミットをやるので、その事業で実施するごみ拾いにワイワイトークの子どもたちが参加していくイメージか。

○事務局：

資源循環サミットはもうすでに活動が始まっていて、それぞれの活動に参加している子どもがいるため、資源循環サミットの活動を参考にしながら、ワイワイトーク参加者の体験活動を別で開催したいと考えている。

○小野部会長：

公共施設マネジメント課の田無第三中学校周辺エリア構想は中学生が対象。企画政策課の総合計画の出張授業は小学生が対象なので小学校の子どもたちはけやき小学校の取組を発表して、中高生は田無第三中学校の取組をお話してもらうというように対象年齢でテーマを分けてはどうか。

○林委員：

西東京市のこれからの計画について、小学生に説明して、学んでもらう。この対象がけやき小学校であった。建て替えの対象が田無第三中学校であったため、今回は田無第三中学校ただけで他校の中学生や小学生でも建て替える可能性はあるという点から話し合いをすること自体は可能であると考えます。

そのため、これらの対象学年を絞る必要はないと思う。

また、体験活動については、ごみのことに限定せずに、まちづくりに関するプレゼンテーションをすることを体験活動とすることはできないのか確認したい。

○事務局：

体験活動の要件として子どもが自身の体を動かすというのがあるのでこれらの取組の市への意見提案や議論だけでなく、その先の実際にやってみようというところをやる必要がある。そういった視点で見ると、資源循環サミットのごみ拾いがよいのではないかと考えている。

○小野部会長：

体験活動に関しては事務局案をメインにし、資源循環サミット以外の2つの取組に関しては、紹介、説明事業として取扱うようにしてほしい。

(2) 西東京市ワイワイトークについて

事務局から資料1に沿って説明

○林委員：

ワイワイトークはこれまで3回やってきているが、今までやってきたことを踏まえて、発表したあとの一連の流れについての説明があるのかを確認したい。

○事務局

資料でも、ワイワイトークでやることとして記載し、今回も発表を受けて市からフィードバックがあることや体験活動をやること、意見交換会をやることなどを説明したいと考えている。

○小野部会長：

学生さんたちが作ったものをメールで送ってもらい、それを委員の方に見ていただくようにしたいので、事務局はご対応をお願いしたい。

(3) 「子どもの意見表明」の子どもアンケートについて

事務局から資料2-1～2-5に沿って説明

○辻委員：

学校でタブレットを利用してやる時間を取ってもらえれば、確実に回答率が上がる。どこまでを学校に依頼するのか。

○事務局：

教育委員会を通じて依頼をするが、学校の時間内でタブレットを開き、回答するように説明することまでは対応が難しいと聞いている。お知らせのチラシを配布する、というところまではご協力いただけるということになっている。

○島崎委員：

保護者への周知のために、教育委員会の方から学校で使用している連絡ツールである「すぐーる」を使用して、回答期間の途中や締め切り1週間前が夏休みに入る時期なので、このタイミングで流してもらえようをお願いするのがよいと考える。

○事務局：

すぐーるの使用自体はできると聞いているため、調整する。

(4) 日常保育での活動の取組状況確認について

事務局から資料 3、4 に沿って説明

○小野部会長：

こまどり保育園に島崎委員と中西委員が見学に行っていたが、様子を報告してほしい。また、報告を受けて、次回見学に行くのが西原保育園であるため、次回見学の際の確認した方がいいポイントについて審議したいと考えている。

○島崎委員：

こまどり保育園で見学したクラスは、0～5歳まで同じクラスで同じ先生が担当している。丁寧な話し合いが行われていた。去年のお祭りの振り返りや今年はどうするかを話し合っていた。本題に入るまでに時間をかけることで、意見を言いやすくしていた。最終的に、子どもが他の子どもの意見を取り入れてまとめるような発言があり、印象に残った。

○中西委員：

子どもの意見を付箋で貼り、それに対しての意見はないかを子どもに聞いていた。子どもが意見を言いやすい環境づくりがされていた。

全体的に子どもの意見が尊重される空間になっていた。子どもと保育士の信頼関係が構築できていると感じた。

○林委員：

外国にルーツがある子はいたか。

○島崎委員：

一人いた。言葉は理解できている様子だった。

○小野部会長：

次回見学に行く西原保育園も同じように0～5歳まで同じクラスで同じ先生なのか。

○事務局：

基本的には学年が上がるタイミングで一人は同じ先生がいるようにしている。

○小野部会長：

島崎委員と中西委員が見学した中で、これは事前に確認していた方がいいということはあったか。

○島崎委員：

議題さえわかっているれば問題ないと思われる。

2 報告

西東京市若者会議について

事務局から資料 4 に沿って説明

○林委員：

応募者は公表されるのか。

○事務局：

参加メンバーは写真等に掲載になっている。名前等は現段階では公表するか決まっていない。

応募者の個人情報公表しない予定である。

○小野部会長：

年齢や性別はメンバー選考で考慮されるのか。

○事務局：

作文がベースになる。その中で、どの点を評価するのかと男女比率や年代の区分けをしている。

○小野部会長：

市内在住でなくても参加できるのか。

○事務局：

市内在住、在勤、在学どれかであれば応募可能としているが、応募者は市内在住の方のみであった。

○小野部会長：

今回、応募が多かったので100文字の作文で選考するのは難しかったと思う。選考方法に関しては、次年度の課題となると考える。

今回落選してしまった方たちへのアプローチはどうなっているか確認したい。

○事務局：

謝金の支払い対象にはならないが、「オブザーバー」制度を設定し、会議を実際に見学していただき、ご意見をいただくタイミングを設けることをご案内している。

○小野部会長：

専門部会員は7月のまとめの会議に参加するということでもいいか。

○事務局：

まとめの会議にはご都合が合う委員はご参加いただき、7月までの取組で若者がどのような意見を出すのかをぜひ聞いていただきたい。日程は決まり次第連絡する。

○林委員：

傍聴はできるのか。取材が来て、メディアに載ることはあるのか。

○事務局：

傍聴は可能としている。今のところメディアが来るという話は聞いていない。こちらからの発信はしている。

○林委員：

気になる点として、高校生年代の方がいるので顔写真や個人情報が出るのであれば、その確認はしっかりするべきである。

○事務局：

写真撮影の許可など、個人情報の取り扱いについては注意する。

○小野部会長：

令和8年度第2回子ども・若者審議会「子ども・若者の権利の観点」からの評価・検証専門部会を閉会する。

以上